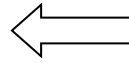


本年度の目指す生徒の姿

- 対人関係に踏み出し、感謝の心を持てる生徒
- 協同する価値を知り、他者に貢献する生徒
- 多様な価値観を尊重し、共に成長する生徒



取組の視点

生徒

- 学習意欲を高め、自律的な学びにつなげる
- 自己肯定感の高まりを自主的、自律的な行動につなげる
- 協同の価値を様々な場面で見出す

教職員

- 意欲を高めることで、活動の質を高める
- 他者信頼→他者貢献→自己受容（肯定）のサイクルを回す
- 生徒の潜在力を信じる

努力点	学校自己評価				学校関係者評価
	本年度の具体的方策	評価指標	評価結果	次年度以降への改善策	
学びのある授業	面接指導のみならず、報告課題の返信欄の記入の仕方にも工夫と改善を図って双方向性を意識した添削指導を行い、生徒の学習意欲を喚起する。	生徒アンケートにより、「面接指導を受けて学習意欲が湧いた」の割合が、70%以上A、60%以上B、60%未満C	B	B	・生徒の学習意欲を高めるための教員研修を実施する。
		生徒アンケートにより、「報告課題の通信欄も書いてみようと思った」の割合が、70%以上A、60%以上B、60%未満C	B		
居がいのある学校生活	魅力ある工夫された行事を計画し、積極的に参加するよう促し、参加を通して自己有用感を十分に持ち、協同の意識の高まりが実感できるようにする。	行事参加者のアンケートにより、「行事に参加して満足した」の割合が、70%以上A、60%以上B、60%未満C	A	A	・講話や講演会では、行事の目的に十分に合った話のできる講師を招聘する。前年と同じ講師の場合は内容を変えていただく。
キャリア発達を促す活動	LHRの実施回数を増やし、生徒の発達段階に応じた適切な履修指導を実践する。	生徒アンケートにより、「履修科目を適切に選択することができた」の割合が、70%以上A、60%以上B、60%未満C	A	A	・キャリア教育の一層の充実を図るため、LHRの時間に外部講師を活用する。
	LHRの実施回数を増やし、段階的にきめ細かにキャリア教育を実践する。	生徒アンケートにより、「自らの進路を具体的に考えることができるようになった」の割合が、70%以上A、60%以上B、60%未満C	A		
困難を抱える生徒への支援	相談が必要な生徒の早期発見に努め、奨学金その他の有用な情報を随時生徒に提供する。 登校することが心理的に困難な生徒への支援策について調査研究し、登校を促すような指導の工夫に努める。	生徒アンケートにより、「先生に相談に乗ってもらい、問題の解決に立ち向かう姿勢ができた」の割合が、70%以上A、60%以上B、60%未満C	A	A	・ケース会議を開いて支援策を検討し、困難の軽減・解決に有効と思われる支援を行う。 ・困難の軽減・解決に有用な情報の収集と共有化に努める。
開かれた学校、外部資源の活用	家庭や地域に向けて積極的に情報発信を行って、外部資源の活用や地域との協働に備える。	保護者アンケートにより、「ホームページやコレスポンド通信等、学校の情報によく目を通している」の割合が、70%以上A、60%以上B、60%未満C	C	B	・ホームページについては、生徒向けの内容と保護者向けの内容を増やすとともに、生徒・保護者の行事参加後の感想も載せるようにする。
		生徒アンケートにより、「外部講師の先生の話が為になった」の割合が、70%以上A、60%以上B、60%未満C	A		
安全安心な学習環境の確保	ルール・マナーを順守する指導の徹底を図り、生徒の自律的な生活態度の育成を十分に行う。	教員アンケートにより、「自律的な生活態度の生徒が去年より増えた」の割合が、70%以上A、60%以上B、60%未満C	B	B	・巡回指導・声掛け・できたら褒める指導などを今後も継続実施していく。

学校評議員(5名)による本校の教育活動に対するアンケート調査では、6項目全ての項目で「よくあてはまる」、「ややあてはまる」との回答で、大変好意的な内容であり、本校の教育活動が評価されていると言える。
また、ひとりひとりの生徒に対する支援を大切にされている本校教職員の姿を感じています。引き続き彼等の進路実現に向けて頑張っていたいただいと願っております。